

(様式4)

令和2年3月19日

富山県教育委員会教育長 殿

学校名 富山県立高岡南高等学校
校長氏名 寫 田 豊

令和元年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

令和元年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、「進路支援」、「学校生活」、「学校の活性化」、「ボランティア活動」、「教師力向上」の5領域で重点項目を決め、それぞれ達成目標を定めて取り組んだ。

(1) 進路支援

本校生徒は目標を諦めるのが早く、学習を継続し、最後まで挑戦しようとする気持を持続できる者がなかなか増えず、生徒の持っている能力からすると、十分に生かされたとは言い難い進路結果であった。

(2) 学校生活

生徒は、種々の活動においては自発的に取り組んでいる。生徒は、地域の方々から、身だしなみが整っていると好評価を受けていたが、最近は一部ではあるが崩れつつある。

(3) 学校の活性化

キャリアデザインプロジェクトSやビブリオバトル等で自己表現力を高め、自らの生き方や在り方を将来への目標に結びつけていけるよう手助けの充実を図った。生徒は意欲的に取り組み、発表会などの機会を経て、プレゼン能力を高めている。さらにレベルの高い学問に触れることにより、興味・関心を高め、自分の進路へと繋げさせたい。

(4) ボランティア活動

「クリーン大作戦」と銘打って、各学年ともクラス単位や学年単位で、地域または校舎内外の清掃活動を実施し、生徒は積極的に取り組んだ。

(5) 教師力向上

若手教員が増加し育成体制は整いつつある。また、中央研修報告やICTを活かした校内研修を実施した。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 進路支援

・面接による生徒支援は次年度も変わらず実施し、大学への出願に関しても、今年度の育成計画を検証し、次年度の対策に生かしたい。

(2) 学校生活

・生徒指導に関して全職員で共通理解を図ることにより、一致した指導へ意識の統一を図りたい。また、食事や睡眠の大切さを理解させ、健康で健全な生活を送るための一助としたい。

(3) 学校の活性化

・キャリアデザインプロジェクトSと称した一連の活動それぞれについて、生徒への意識付けと目的を明確にし、さらにレベルの高い学問に触れ、また将来の夢に繋がる講演を聞くことにより、将来の進路選択へと繋げていきたい。

(4) ボランティア活動

・クラス単位・学年単位で地域に貢献することで、地域との繋がりも深まり、また将来働くと言うことの意義(生活の糧を得る、目標の達成、社会貢献)のひとつにある社会貢献の意識も向上させるためにも、来年度も継続して実施し、ボランティアに対する理解をさらに深めたい。

(5) 教師力向上

・今年から導入されたタブレットを利用したICT教育の推進を中心として、互見授業、研究授業参観への呼びかけを積極的に行い、参観後の振り返りや外部研修受講後の報告会等による情報共有ができるような工夫をしていきたい。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和元年度高岡南高校アクションプラン -1-	
重点項目	進路支援
重点課題	(1) 3年間を通して挑戦する気持と諦めさせない心を育成するとともに、全校協力態勢のもと粘り強く最後まで指導し、生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格を支援する。 (2) 一人一人の生徒を理解して実態を的確に把握した上での学習習慣の育成や進路指導が重要という意味で、面接指導の充実を図る。
現 状	・生徒の持っている素質や能力からすると、十分に生かされたとは言い難い進路結果である。安易な方向に流れて学習が継続できなかったり、目標を諦めるのが早く最後まで挑戦する気持を持ち続けられない生徒が少なくない。
達成目標	(1) 生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)の合格率
	(2) 生徒1人あたりの面接実施回数 (担任、副担任、授業担当者)
	卒業生数の65%以上
	1・2年生:6回以上 3年生:12回以上
方 策	(1) 学習時間のスタンダードは、〈平日:1年・2時間、2年・3時間、3年・4時間〉 〈休日:1年・4時間、2年・6時間、3年8時間〉とし、全体に周知を図りながら学習時間を位置づけた生活習慣を身につけさせる。なお、3年生は体育大会後は平日5時間、休日10時間を標準とする。 (2) 1年生の初期指導を重視する。また、面接週間以外に校外模試の自己採点時での面接を必須とするなど面接指導を通して生徒の気持ちを前向きにさせる。 (3) 大学入学共通テストに対応し、定期考査の約1割は思考力を試す設問とするなど授業やテストを通して思考力の養成を図る。 (4) 高い志望校の設定を指導しながらそれを貫かせるように支援する。また、そのことを通じて挑戦する気持と最後まで諦めさせない心の育成を図る。 (5) 校内外テストの成績状況や結果を分析し、今後の指針となるような資料を作成するとともに校内全体で各学年の情報を共有できるよう努める。 (6) 3年生の進路支援を全校協力態勢を確認しながら充実を図る。特に、センター試験後の2次試験対策を強化し、生徒の第一志望校合格を支援する。
達成度	(1) については国公立前期発表時点で昨年度の同時期より成果が出ている。 (2) については、1・2年生は既に達成できている。3年生は現在10回程度。今後志望校や出願に関わる面接が4~5回、外部模試も3回程あるので目標以上になるのは確実。
具体的な取組状況	(1) 毎朝、前日の学習時間を書かせることを通じて自分の生活を振り返らせている。9月中旬段階で、1年・2年とも(平2<110分>・休2.5<140分>)程度でしかない。3年生は(平4.5<275分>・休8.5<510分>)というのが現状である。 (2) 1年生については、生活指導と面接を中心に初期指導(早く高南の生徒にする)を全校で展開した。1学期の早い段階からその効果(例えば、挨拶などがきちんとできる)が現れている。 (3) 定期考査に入れた思考力問題とその評価や検証についてのレポートを、各学期末に全校の職員に提出してもらって冊子にまとめている。どの程度生徒の思考力を養成できているか客観的に判断することはできないが、全校的な展開として今後も取り組んでいくつもりである。また、外部英語検定試験にも十分対応できている。 (4) 3年生12月段階で、難関10大学志望者が21名(東大1・京都3。昨年の難関10大学志望者29名)となっているので、生徒数の違い(今年160名、昨年200名)を考えればほぼ例年並と考えて良い。もちろん、センターの結果で変化はあるが、難関大学だけでなく全校を挙げて最後まで支援する態勢になっている。 (5) 各学年とも外部模試の結果分析を模試ごとに行い、全員がすべての学年の状況や情報を共有できる仕組みになっている。 (6) 3年生の成績状況や志望状況は、全校で共有する仕組みになっている。学年の枠を超えて、全校態勢で3年生を支援する。
上記方策の(1)~(6)に対応して記述	
評価	B
学校評議員の意見	一人ひとりの生徒に時間をかける取り組みである「面接指導の充実」は教員と生徒の信頼関係の構築や進路を考えていく生徒の拠り所であるのでより充実をしてほしい。
次年度に向けての課題	(1) 面接による生徒支援は次年度も変わらず実施していきたい。 (2) 第一志望校の合格率が判明した時点で原因を探り、次年度の対策を考えたい。 (3) 難関大学志望者の半数が出願するようにしなければならない(今年度は約半数)。

重点項目	学 校 生 活	
重点課題	(1) 学校生活を生徒自身が主体的に取り組む生徒集団の形成 (2) 食の理解と朝食習慣の定着	
現 状	(1) 学校生活に主体的に関われる活動が増え、活発に取り組んでいる生徒が増えてきている。 (2) 朝食を食べてくる生徒は多いが、内容に改善するところがある。	
達成目標	(1) 学校生活に主体的に取り組んでいると感じている生徒の割合 (2) 朝食を食べてくる生徒の割合	90% 90%
方 策	(1) ・生徒会執行部や校紀委員会を中心に学校生活をよくするための企画、運営を行う機会を設ける。 ・外部講師から着こなしやマナー、現代社会問題について指導していく機会を設け、生徒自身に生活について考えさせる。 ・部会の定例化、学年との連携を密にすることで学校生活の問題点や情報を共有しながら、生徒が主体的な学校生活を送れるように支援する。 (2) 朝食実態を把握し、食事の重要性の理解することで自身の朝食習慣を見直してみる。	
達成度	(1) 学校生活に主体的に取り組んでいると感じている生徒の割合 (2) 朝食を食べてくる生徒の割合	93% 95%
具体的な取組状況 上記方策の(1)～(6)に対応して記述	(1) 生徒校紀委員会を中心に「夏、秋のさわやか運動」を行った。事前にポスター、スローガンを作り校内に掲示し、あいさつ運動にも、係以外の生徒を募集し、参加してもらった。また、「学校生活意識アップ週間」を1、2学期に企画し、「クラス目標」各クラスで決めてもらい、放送での呼びかけ、クラスでの呼びかけを行った。また、事前、事後アンケートを行い、具体的な意識アップにつなげた。外部講師を招聘し、「マナーセンスアップ教室」「薬物乱用防止教室」を行った。3学期には「イレブン・セブン運動」「スマホ川柳大会」を行い、意識の向上を図った。 (2) 4月の新入生オリエンテーションでは、1年生に高校生活を毎日健康に送るために朝食を大切に、朝食の意義、習慣をつけることを勧めた。2学期には保健環境部ではホームルームの授業時間を使って1学年の統一ホームルームを計画し、「朝食～食事と栄養」というテーマで栄養士の方から、朝食の意義、効果、栄養の基礎知識について、学んでいる。そのために生徒保健委員会で1年生の朝食の習慣や食事内容などについて事前にアンケート調査を行い、実態を踏まえた話をしてもらい、朝食習慣や食事内容を振り返らせた。「健康たかおか10か条」の第1条朝食啓蒙ポスターを掲示し、啓発した。	
評 価	A	
学校関係者の意見	「食」をテーマに朝食の大切さを啓蒙していることは、生きるという事に係わる大変重要な取り組みです。また「スマホ」についても徹底した対応が求められている。	
次年度へ向けての課題	・生徒たちがさわやかな学校生活を送れるような企画を考えていく。 ・全教員で情報を共有し、個々に合わせた対応ができるように話し合いを持つ。 ・次年度も朝食の実態を把握し、生徒だけでなく保護者にも朝食の大切さを啓蒙していく。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校の活性化
重点課題	将来への大きな志を持ち、主体的に学び活動する生徒の育成
現 状	<p>(1) キャリアデザイン・プロジェクトS(総合的な学習の時間)で、自らの生き方を考え、将来への展望を持ち、高き目標を持たせるような授業を展開している。</p> <p>(2) 生徒・教職員数の減少が続く、学校行事、部活動の従来どおりの企画・運営が難しくなっている中、学校活性化を損なわず、「元気南」を標榜す本校の立ち位置をいかに維持するかという課題に直面している。また、各行事に対して地域の方に対して広報活動を行い、多くの方に参観してもらうことが、生徒の行事に対する意識を高めるという面からも必要である。</p> <p>(3) 図書館を学びの場として活用して利用している生徒も多い。図書の出し数は横ばい傾向である。</p> <p>(4) 人文科学コースでは、教科「文化と情報」で表現力やコミュニケーション能力を高める授業を実施している。</p>
達成目標	<p>(1) キャリアデザイン・プロジェクトS(総合的な学習の時間・総合的な探究の時間)を通じて、進路目標が明確になった生徒の割合80%以上。</p> <p>(2) 学校行事に対して、生徒ひとりひとりが協働的かつ主体的に取り組み、80%以上の生徒が達成感を得ることをめざす。また、各学校行事に対して多くの地域の方の参観をいただく。</p> <p>(3) 一人につき年に2冊以上の貸出し数(のべ960冊以上)</p> <p>(4) 人文科学コース・教科「文化と情報」で表現することの関心・意欲が高まったと感じる生徒の割合80%以上。</p>
方 策	<p>(1) 総合的な学習の時間において、地域の方や同窓生、保護者、大学の教授などの活動を伺う機会をもち、広い視野で将来の目標を考えられるようにする。</p> <p>(2) 生徒会執行部員をサポートし、生徒全員が主体的に活動できるように配慮する。合唱コンクール、体育大会、南高祭において、地域の方に事前にプログラム等の配付を行い、参観の環境を整える。また、これにより生徒の行事に対する意識を高める。</p> <p>(3) キャリアデザイン・プロジェクトSでの探究的な活動で書籍を活用させる。図書館から朝読書用の書籍を選ばせる。(1年オリエンテーション時)</p> <p>(4) 「スプリングセミナー」等の校外学習および校内学習での学びをもとに、発見学習や発展学習を多く取り入れた質の高い授業を実践する。</p>
達成度	<p>(1) 進路目標が明確になった生徒の割合 1学年90% 2学年53%</p> <p>(2) 保護者・地域の方の参加人数 合唱コンクール328名 体育大会約400名、南高祭(平日開催)340名 各行事に対して達成感得られた生徒の割合91%</p> <p>(3) 2月14日までの図書貸し出し数935冊(1人あたり1.94冊)</p> <p>(4) 関心・意欲が高まったと感じる生徒の割合、98%</p>
これまでの具体的な取り組み状況	<p>(1) ・1学年:「キャリアデザイン・ゼミナール」講演会を3回開催し、職業観・進路意識を高め主体的で創造的な学びを涵養することを目指した。また、文理選択後に「大学連携講座Ⅰ」を開催し、大学から講師を招聘し、講演を行う中で学びに向かう力を育成した。</p> <p>・2学年:「大学探検Ⅱ」が希望者参加になるが、「探究的な活動」を充実させ、大学と連携し講師による指導・助言を3回実施していて、探究の手法の獲得のみならず問への誘い、更に視野を広げて進路を考えさせるよう工夫した。</p> <p>(2) ・各行事に先立ち、広報紙の地域の方への回覧やプログラムの事前配付を行う。</p> <p>・各行事は生徒会執行部が中心となりながらも全校生徒が積極的に参加できる企画の工夫に努める。</p> <p>(3) ・図書館の掲示板を校内に3カ所設置し、広報に力を入れた。</p> <p>・朝読書を実施している1年の貸し出し数は、11月末現在447冊である。(一人につき2.8冊)</p> <p>(4) ・前半(スピーチ、短歌、ピリオバトル、新聞記事)、後半(Skypeを用いた台湾の高校生との交流)それぞれで様々な表現活動を行う授業を展開した。</p>
評 価	<p>B どの活動においても、意欲的に取り組む生徒が多く見られた。</p>
学校関係者の意見	<p>・キャリアデザイン・プロジェクトSの取り組みについて、複数の大学と連携しながら、多彩な内容で取組まれていることは素晴らしい。課題研究する上で関係図書の実用も工夫してほしい。</p>
次年度へ向けての課題	<p>(1) 総合的な探究の時間の1・2学年での本格実施に伴い、探究の見方や考え方を働かせ(探究的な学習の充実)、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、自己の在り方生き方を考えながら(キャリア教育の充実)、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(2) 生徒数・教職員数が減少する中で、いかに学校の活力を維持していくかという課題に直面している。各行事を地域の方に積極的に公開し、これによって生徒一人ひとりの行事に対する意識の向上を図っていきたい。</p> <p>(3) 生徒の読書量を増やすために、学年・特活部とタイアップしていく必要がある。(HR・探究的な学習・大学探検・朝読書などの時間の活用)</p> <p>(4) 「文化と情報」の授業を通じて、今年度同様に生徒が意欲的に表現活動に取り組めるような内容を工夫していく。</p>

重点項目	ボランティア活動	
重点課題	1学年:生徒のボランティア意識の向上 2学年:自発的なボランティア意識の向上 3学年:地域と連携したボランティア活動への意欲的な取り組み	
現 状	1学年:これまでのボランティア活動への参加が5割程度 2学年:昨年度のボランティア活動への参加が学年の8割程度 3学年:ボランティア活動への参加が学年の8割程度	
達成目標	1学年:1年生全員がホームルームその他のボランティア活動に参加する。 2学年:全クラスがホームルームでボランティア活動を計画し実践する。 3学年:地域と連携したボランティア活動への参加が学年の8割程度。	
方 策	1学年:①身近なボランティア活動をクラス単位で企画し実践する。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。 2学年:①生徒会のボランティア企画や部活動、クラス単位での積極的な参加を促す啓発活動を行う。 ②校内外のボランティア活動の情報提供に努める。 3学年:①ボランティア活動が実践できるようホームルーム計画を立てる。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。	
達成度 (中間)	1学年:目標の100%達成。 2学年:目標の80%程度達成。 3学年:目標未達成(下記※参照)	
これまでの 具体的な取 組み状況	1 学年 : 戸出七夕祭り前の会場地区の環境整備のボランティアに参加。 11H 10/31(木) 職員室前廊下の清掃ボランティア実施。 12H 11/ 7(木) 通学路・戸出駅周辺の清掃ボランティア実施。 13H 10/31(木) 校舎敷地内のゴミ拾い清掃ボランティア実施。 14H 10/31(木) 校内窓拭き清掃ボランティア実施。 2 学年 : 戸出七夕祭り前の会場地区の環境整備のボランティアに参加。 21H 11/21(木) グラウンド周辺の環境整備実施。 22H 3学期に実施予定 23H 11/21(木) 戸出駅からの通学路中心に清掃ボランティア実施。 24H 6/20(木) 戸出地区清掃ボランティア実施。 3 学年 : 3/28(金) 学年合同で「ありがとう戸出町・南高校ボランティア」実施の予定であ ったが、コロナウイルスの影響で、校内の清掃ボランティアに変更して実施。 生徒会、企画ボランティア委員会、吹奏楽部 (いきいきサポートセンターゆめ訪問 2月8日(土)) 茶道部 (だいき苑、いきいきサポートセンターセンターゆめ訪問茶会8月初旬) 野球部 (戸出保育園の運動会のためのグラウンド整備) 吹奏楽部 (戸出保育園のクリスマス演奏12/19) 陸上競技部、希望者20名(とやまマラソンの運営ボランティア)	
評 価	A	各学年とも目標を達成した。
学校関係 者の意見	・清掃活動を中心とした環境整備、福祉施設や保育園との交流など素晴らしい地域貢 献があるからこそ、地域から愛され、生徒も進学後も将来は地元に戻ろうという地元 愛が育っているの、続けてほしい。	
次年度へ 向けての 課 題	今年度もクラス単位、学年単位でボランティア活動を行い、生徒の意識向上につな げようという取り組みを継続して行った。日頃から支えていただいている戸出地区に 対して貢献する意欲を高め、生徒同士で協働作業することの楽しさや大切さを実感し、 意欲が高まった。個人個人がそれぞれの目標や興味に応じてボランティア活動に参加 するのは高校時代には難しいが、昨年の助言を踏まえて、より外部のボランティアに 活動の場を広げることができたので、さらに多くの生徒が参加できるように体制を整 えたり、卒業後も継続的にボランティアに参加する意識を育てたりしていけるよう 工夫していく必要がある。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	教師力向上	
重点課題	大学入学共通テスト(新テスト)の実施にむけての授業改善	
現 状	<p>(1) 互見授業などを活用し、各教科・学年の授業を参観する機会が増えてきたが、互いに学び合う場として、さらに工夫する余地がある。</p> <p>(2) 若手教員が、受験指導に直接関わることが多くなってきており、さらなる研修が必要となっている。</p> <p>(3) 大学入学共通テストにむけた授業改善の方策や、英語外部テストの導入に伴う各大学の対応、学びの基礎診断の活用などに関する情報が不足気味である。</p>	
達成目標	<p>(1) 他教科の授業(新テスト対策を含めた)の互見授業参観2回以上</p> <p>(2) 若手教員と中堅教員、ベテラン教員が相互に学び合う校内研修の実施回数2回以上</p> <p>(3) 新テスト導入に関する外部講師を招いた校内研修2回以上</p>	
方 策	<p>(1) ①互見授業期間に各教科1名以上の指定公開授業を行う。 ②他教科の授業を含めて、授業を2回以上参観する。 ③報告書を書くことで自分自身の学びを確認する。</p> <p>(2) 進路指導部と連携しながら、若手教員の受験指導について学びあう校内研修を実施する。</p> <p>(3) 新テストに関しての校内研修を通じて、新制度への理解を深め、今後の教育活動改善に役立てる。</p>	
達成度 (中間)	<p>(1) 他教科の授業(新テスト対策を含めた)の互見授業参観2回以上:72.3%</p> <p>(2) 若手教員と中堅教員、ベテラン教員が相互に学び合う校内研修の実施回数2回以上:2回</p> <p>(3) 新テスト導入に関する外部講師を招いた校内研修2回以上:1回</p>	
これまでの 具体的な 取り組み 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の互見授業は、期間を決めて各教科で実施したが、2学期は県教育委員会の学校訪問に合わせて実施した。1学期においても様々な成果が報告されたが、2学期においては、県教委指導主事からも貴重な指摘を受けることができ、各教員の事業改善に大きく役立つことができた。 ・1学期に、外部講師を招き、今後の「新テスト」に伴う制度変更についてレクチャーを受けた。最近「英語外部検定」、「国語と数学の記述問題」の相次いで見送りが発表されたことを受けて、今後再度外部講師を招くことも必要と思われる。 ・進路指導部を中心に、各教科の「思考力問題」を冊子にまとめて配布し、授業力の向上に寄与している。 ・H30年度にプロジェクター、スクリーンが設置され、R元年度にタブレット型PCが装備され、次年度ICT教育に向けた全教室での取り組みが待ったなしに到来することを受けて、今年度中に各教科で授業での利用推進を進めるため、教科内研修や外部講師を招いての研修を行った。 	
評 価	B	各種の研修を実施することができ、教職員の知識・技能の向上はみられたが、ICT機器の授業への活用については十分といえない面もある。
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業や研修で不十分な点を自己分析されているので、改善して次に生かしていただければ有り難い。 ・大学入試制度改革において頓挫している部分もあるが、教員と生徒が一体となって情報収集し、具体的対策を講じながら推進していただきたい。 	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・教科内での互見授業は積極的に行われた一方、教科をこえた互見授業は、あまり実施されなかった。教科をこえた探究的な授業展開が求められる中、教科外の授業を積極的に参観する必要がさらに必要である。 ・大学入試制度改革の進展について、適切な情報と対策が今後も求められる。 ・導入されたICT機器の利用について、使用してみてわかってきた課題の解決を全職員で検討し、よりよい活用法の工夫がさらに必要である。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)